

# 伝統行事 復活する町

日本書紀にもゆかりがあり、長い歴史を持つ橿原市小網町。住民の高齢化とともに姿を消した伝統行事もあったが、近年は子ども連れも増えてきた。そんな子どもたちを巻き込んで行事を復活させるなど、自治会が地域の活性化に取り組んでいる。

4日午前10時ごろ、小網町の入鹿神社に、はっぴ姿の小学生ら十数人とその親が集まった。田植え前に豊作を祈る地域の伝統行事「野神さん」だ。

フラで作った蛇を、子どもたちが約300匹離れた「野神塚」に運んでいく。「よいしょーよいしょー」。元気な声が、古い民家が残る町並みに響いた。蛇を木に巻き付け、全員でお参りした。

入鹿神社に戻ると、綿菓子やポップコーンがふるまわれた。今井小1年の播磨希美さん(6)は「みんなと一緒に運んで、おもしろかったよ」とほかにんだ。

十数年前に途絶えた野神さんを、小網町自治会が今年、子ども向けの祭りとして復活させた。辻本忠彦会長(73)は「子どもたちをどんどん巻き込み、地域を盛り上げたい」と言う。

小網町では住民の高齢化に伴い、住民が集まって朝まで寝ないで過ごす「お日待ち」などの行事が次々となくなっていた。野神さんもその一つだった。一方で、近年は近鉄大和八木駅から徒



①フラで作った蛇を運ぶ子どもたち

②蛇を木に巻き付けて、子どもたちに行事の説明をする辻本忠彦会長。＝いずれも橿原市小網町

## 小網 子育て世帯増、自治会が企画

歩道内の利便性が注目され、子育て世帯が引っ越してくるようになった。今年4月現在、小網町に住むのは483世帯、1183人。10年前から約4割増えた。こうした住民に地域への関心をもってもらうと、自治会は花見や夏祭り、大とんどのイベントを企画してきた。一昨年には「ろーそく一本」という伝統行事も復活させた。子どもたちが「ろーそく一本おくれんげ」と言ってお参りをし、お菓子をもらってハロウィーンのような行事だ。

7年前に引っ越してきた大成中2年の時田きりさん(13)は、ろーそく一本に参加し、「楽しかった」。イベントを運営する側に回りたいと、時々友だちと一緒に手伝う。

副会長の前垣信也さん(57)は4年前に大和高田市から移り住んだ「新住民」だ。「以前は職場と家の往復の生活だった。入鹿神社の由来などを教えてもらい、地域に目をむけるようになった」。

辻本会長は「住民同士のつながり、小網町の歴史を次の世代に引き継いでいきたい」と話す。(田中裕世)

